



愛友会四国連合会報

第 26 号

79. 4



目次

電友会の皆様へ……………	四国電気通信局長……………	二
恩給・年金情報……………		二
公社だより……………		三
電電公社人事異動……………		三
表紙のことば……………	莊野 丹秀……………	三
共済会だより(五)……………		四
おしらせ……………		四
忘れてはならない年金ごよみ……………		五
特集……………	土に親しむ……………	六
	岩原 文男 遠藤 正義 おじまさとし 大浦栄三郎 久米 清 勝川 正男 久米 実 香西 義行 田辺 正久 野本登美江 山下 茂 水野 輝穂 三好 利雄 渡辺 般貞 尾田 茂夫	
でんでん日尾クラブ第六回集会……………		二
余栄・訃報……………		二
随筆……………		三
	泉 節太郎・栗田 信雄・合田 勇・高橋 数一 田中 義隆・藤田 基孝・池田 清繁	
川柳……………	福田秋風郎……………	三
編集後記……………		四

電友会の皆様へ

四国電気通信局長

藤 田 史 郎



春寒しだいにゆるみ梅花の頃となりましたが、四国電友会の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

私は去る一月十六日付をもって四国電気通信局長を命ぜられた藤田史郎でございます。私にとって、四国は始めての勤務ですが、過去数回の出張において、瀬戸内海、石鎚山系の山並みと太平洋の雄大さなど、自然の美しさ、それに当時お会いしました人々の想い出等が残っておりまして、自然にめぐまれた、また、人情豊かな土地柄であるという印象を強くもっており、この四国で仕事が出来ることになったことを、大変幸せに思っております。

公社発足時からの宿願であった積滞解消、完全自動ダイヤル化という二大目標は、四国においても昨年十一月に達成され、また、全国に比べて遅れ気味であった、電話の普及もほぼ全国水準に達することが出来ました。

このことは、職員の努力だけではなく、かつてこの目標に向けて日夜努力してこられた諸先輩皆様方の業績によるものである、と深く肝に銘じると共に、あらためて厚くお礼申し上げます。

私は本社監査局時代に、公社内の経営状態をつぶさに見てまいりましたが、公社は、外

部からの意見をとり入れられているように、実は唯我独尊というか、事業の中には案外これがとり入れられていないし、また、逆に公社の考え方が外部に理解されていない。そのことを痛感いたしました。

これからは地域の方々の感覚を知るため、自ら胸を開いてもっととび込んでいかなければならないし、また、外からみてわかりやすい事業運営を心がけなければならぬと思います。そのためにも、まず、公社内部においても、もっとわかりやすい指導が行われるように努めていきたいと考えております。

公社事業は、今、量の時代から、質の時代に向っております。それだけに一層我々はきめ細かいサービスというものに心がけなければならぬと考えております。具体的には地集の一般化や山間へき地の通信設備の整備、さらには、大都市に比べて遅れている新規サービスの早期導入などにとりくみたいと思えます。同時に、回線の二ルート化など、台風や災害に強い設備についても心がけたいと考えております。

公社事業を運営していくうえにおいては、地域の人達との一層密接なつながり、地域社会の理解と協力が不可欠であり、近年特にその傾向が強まっております。私といたしましても、この点十分配慮していく所存でありますが、公社事業に深い御理解と、豊かな経験をもたれ、地域社会において厚い信望を得ておられる皆様方のお力添えを心からお願いたします。

最後に、諸先輩の皆様方には、ますます御健康で御活躍くださいと同時に、電友会の御発展を心からお祈りいたしました。私のごあいさつといたします。

恩給・年金情報

昭和五四年度恩給改善措置（政府案）により、共済年金関係として次のような点が改正される見込ですが、これの実施については恩給法が国会の議決により実施となり、共済年金もこれに準ずるものでありますので、一応の情報としておしらせします。

一、昭和五三年度の公務員給与の改善内容を基礎として年金額算定の基礎となっている仮定俸給を四月より引上げる。

現行年金額の算定の基礎となっている仮定俸給年額の区分	引上げ率及び引上げ額
一、七二四、九九九円以下	三・七% 十二、〇〇〇円
一、七二五、〇〇〇円以上	三・三% 十八、九〇〇円
二、七八八、八八八円以上	二・四% 十三四、〇〇〇円
四、四三三、三三三円以上	一四〇、四〇〇円
四、五一八、三一九円以上	減五九・五五十二、八八〇〇円
四、七五四、二八五円以上	引上げ措置なし

- 二、最低保障の引上げ（四月より）
- 三、戦務加算年齢の引下げ（五歳引き下げ六〇歳以上とする、十月より）
- 四、八〇歳以上の高齢者等に対する算出率の特例の改善（一三年を超える年数についても三〇〇分の二を加える。六月から）
- 五、高額所得者に対する年金の一部停止（年金外の給与所得が六〇〇万円以上でありかつ、退職年金額が一二〇万円以上である者については、一二〇万円を超える退職年金の二分の一の支給を停止する。一〇月

より)
 その他恩給改善に準じて改善されるものもあると思われませんが、次号にておしらせします。

公社だより

生きている証拠を

四月は年金受給者の受給資格を確認する月です。職員部厚生課から送付される証明願(同封されているハガキ)に居住地の市町村長の証明を受けたうえ、期日までに必ず出して下さい。

おられると、年金の支払を受けられなくなることもあります。市町村によってはこの証明の手数料を免除しているところもありますので付言します。

- 証明は五四年四月一日以降であること
- 提出期限 五四年四月二〇日(必着)
- 提出先 千七九〇 松山市一番町四十二

四国電気通信局職員部厚生課 共済係

電電公社 人事異動(敬称略)

- 四国電気通信局長 (五四、一、一二) 藤田史郎
- 四国電気通信局副局長 阪上昭二
- 横須賀電気通信研究所 江口茂
- 事務部長
- 藤倉電線KK参与 (五四、二、九)
- 職 工 藤理一郎

- | | | | |
|----------|-----------|----------------|----------|
| 経営調査室長 | 西野光一 | 松山電信施設所長 | 高本隆之 |
| 監査部長 | 矢野寿恵 | 松山統制無線中継所長 | 森本繁 |
| 職員部長 | 芝尾昌宏 | 高松同 | 矢野川賢 |
| 業務管理部長 | 伊瀬正章 | 四国電気通信保全工事事務所長 | (五四、二、九) |
| 計画部長 | 中井龍夫 | 北条電報電話局長 | 沖見章 |
| 施設部長 | 曾我部 | 内子同 | 脇水太郎 |
| 建設部長 | 岡本倉功 | 伊予吉田同 | 大野治 |
| 松山通信病院長 | 安部坦孝 | 川之江同 | 赤山弘敏 |
| 愛媛電気通信部長 | 長倉 | 長尾同 | 大池正好 |
| 高知電気通信部長 | 日本間正剛 | 引田同 | 福田貴美子 |
| 松山電話局長 | 二宮鹿一 | 石井同 | 十亀喜久 |
| 高松電話局長 | (五四、一、三〇) | 吾川同 | 土佐大月同 |
| 松山電報局長 | | 土佐同 | 梶原長憲 |
| 大洲電報電話局長 | | 田井同 | 田中義弘 |
| 今治同 | | 新居浜統制電話中継所長 | 増井重明 |
| 伯方同 | | 高知同 | 鈴木俊一 |
| 壬生川同 | | 今治電話中継所長 | 土居重明 |
| 西条同 | | 宇和島統制無線中継所長 | 高木輝夫 |
| 伊予三島同 | | 土佐中村同 | 岩崎武雄 |
| 高松電報局長 | | 今治無線中継所長 | 岩崎武雄 |
| 丸亀電報電話局長 | | | 以上 |
| 善通寺同 | | | |
| 鳴門同 | | | |
| 日和佐同 | | | |
| 小松島同 | | | |
| 阿南同 | | | |
| 阿波勝浦同 | | | |
| 丹生谷同 | | | |
| 土佐同 | | | |
| 窪川同 | | | |
| 宿毛同 | | | |
| 土佐山田同 | | | |
| 安芸同 | | | |

表紙のことは

莊野 丹秀(内海)

野道を散歩していると、つくしが顔を
 出している。小がにがぶつぶつ泡を出し
 てつぶやいている。早春の野山には春遠
 からのいぶきが満ちあふれている。
 急に青春がよみがえったような気持に
 なって、大声を上げて歌をうたって見た
 くなった。春の歌を!!

共済会だより (五)

電気通信共済会四国支部
福祉相談所

生活援護事業が变ります

電気通信共済会は、電電職域の退職者、遺族、現職者のため、各種の社会福祉事業を行っています。昭和三十四年度から大幅に变ります。

改正の主な理由は、

- 一、厚生福祉事業援護資金による各種見舞金等を生活援護事業に吸収し、社会福祉事業の体系の整備をはかった。
- 二、援護を必要とする方々の生活の実態に即して新規項目を設けるとともに、物価上昇の状況を考慮して給付額を引き上げるなど生活援護事業の拡充、強化をはかった。
- 三、各支部における援護の種目、給付水準の不均衡を解消するため、支部単独事業を廃止し、全国を統一して福祉の公平をはかったことです。

具体的な改正内容などにつきましては、「電電四国」三月号及び「ともがき」九号にも掲載していますが、退職者の皆さんには、この規程改正の周知を兼ねてアンケート調査をお願いしておりますので、ご協力をお願いいたします。

昭和三十四年度退職者文化活動計画のあらまし

初年度における退職者文化活動援助事業は退職者の皆さんに喜ばれながら好評裡に年間予定行事を消化し、おおむね所期の目的を達成することができました。

事務局では、昭和三十四年度実施計画案を次

のとおり予定しています。引き続き、積極的なご参加をお待ちしています。

一、文化講演会

昨年度は、松山(六月)高松(二月)において開催しましたので、今年度は徳島、高知において開催したいと考えています。実施期日、テーマ、会場等は、両地区の退職者団体会長等に決めていただくことになっています。

二、電電OB大学

松山における標記園芸講座は、今年度も引き続き実施するという事で受講生の意見集約を行っていますので、別途、年間スケジュール表等でご案内する予定にしています。

なお、春秋二回程度の教養講座も設ける予定にしていますので、具体的な日時等が固まり次第ご案内します。

三、サークル援助

前年度発足した援助対象サークルは、五三年度中における活動実績と五三年度計画を提出していただき、その活動状況により援助額を決定することになっています。

サークル活動の拡充と定着化を期待しています。

四、その他、松山市において年間途中「余技作品(絵画、書道、写真、盆栽、手芸等)展示会」を開催してはどうだろうかということも考えています。

皆さんのご意見をお待ちしています。

「軟式庭球」電電OB大会開く!!

退職者サークル活動の一環として発足した電電OB軟式庭球クラブは、一月二十五日堀

之内コートで第一回電電OB軟式庭球大会を開催した。

当日は雲一つない秋晴れに恵まれ、真白いユニホームに着替えたどの顔も明るかった。早速、駆足で体調を整えるもの、素振りでもフォームを調整するもの、久し振りにラケットを握り試合前の練習で早くもネを上げる者などスタンドからのヤジも飛び交い、和やかなOBの大会らしい雰囲気となった。

試合はリーグ戦で開始されたが、かつてのヒーローたちも寄る年波にはかたず、気持はボールを追っかけても、足がいつこうに動かず珍プレーの続出!! 結局、吉村、田中組が日ごろの練習の成果を発揮して優勝、数かずの賞品を獲得した。

また、参加者には、小松会長より記念のメダルが贈られた。

このあと、大会運営に協力してくださった現役の方達と交え、ささやかな懇親会が持たれ、来年「OB全国大会」松山市開催の実現をめざし、その体制づくりを確認した。

一汗かいたあとのビールの味はまた格別、酔うほどに昔話に花が咲き、お座敷コートに一球一打の白熱戦が展開され、時間の経つのも忘れる一夜であった。

現役の方々のお力添えを感謝するとともに、ますますの発展を祈る次第です。(T生)

おしらせ

○七月一日現在で会員名簿の補正を行なう予定です。お手許の名簿と変更になっている方は至急各県の会の事務所へ申出て下さい。今後も住所、職業、電話番号等の変更があった場合は、その都度事務所へ速報下さい。

○本年度の連合会総会は高知で開催の予定です。くわしくは次号でお知らせします。

忘れてはならない年金ごよみ

月 別	項 目	提出期限	内 容	備 考
1 月	扶養控除等申告書の提出	1月10日	退職年金・減額退職年金及び通算退職年金受給者のうち、年金を主たる収入としている方。	満65才以上で年金を主たる収入としている方は、申告書に記入する際「老年者控除」を○でかこんでください。
2 月	確定申告	2月16日 ） 3月15日	年金以外に収入のある方は、主たる収入である給与等と従たる収入である年金とあわせ、最寄りの税務署へ各々の源泉徴収票を添付のうえ確定申告を行なってください。	12月に送付される源泉徴収票は大切に保管しておいてください。
4 月	受給権利確認証明書の提出	4月中旬	職員部厚生課から送付される証明願に4月1日以降の市町村長の証明を受けて出してください。 ○証明願は別に定める様式(ハガキ)です。	市町村によってはこの証明の手数料を免除しているところもあります。
10 月	保険料控除申告書の提出	10月10日	扶養控除等申告書を本年1月10日までに提出されている方で当年中に支払った保険料がある場合、提出してください。	
12 月	源泉徴収票の送付	12月中旬	退職年金受給者あて当年分の源泉徴収票が職員部厚生課から送付されます。	2月の確定申告を行う際、添付するのに必要です。
3 月 6 月 9 月 12 月	年金支払月	3、6、9、 12の各月6 日にそれぞ れ送金され ます	3月—(12月、1月、2月の3ヶ月分) 6月—(3月、4月、5月の3ヶ月分) 9月—(6月、7月、8月の3ヶ月分) 12月—(9月、10月、11月の3ヶ月分)	

注

- 年金に関する各種問合せ、手続等については、年金記号番号にもとづき行っておりますので各種の届け出書類の余白に必ずあなたの年金記号番号と、自宅電話番号を記入してください。
- 次のような変更が生じた場合は「年金手帳」にその手続き方法が記載されていますので、すみやかに届け出てください。
①氏名を改めたとき ②住所を変更したとき ③本籍を変更したとき ④支払金融機関を変更したとき ⑤年金を受けている方がなくなったとき ⑥遺族年金を受けている方がなくなったり、結婚したり、養子となったり、満18才になった時等。
- 問い合わせは四国電気通信局職員部厚生課共済係(0899-36-2081番)へ。

特 集

土に親しむ



岩 原 文 男 (高知)

私の家は農家でないので農作の経験はない。しかし農業のまねごとをしたことはある。

昭和二十年春四月二十日私は戦車隊の通信兵として久留米へ転属をして新設された戦車部隊の一人として行った。一週間ほど経って宮崎県の山手の綾町へ移った。目的は米軍の上陸を阻止するためのものであった。

農家に分宿して、戦車戦の訓練を農作であるお百姓さんが「兵隊さんこの土を一日いじると手の小さいしわは黒くなりますよ」と云ってくれた。

一日農作してみるとお百姓の云ったとおりに小さいしわもはつきりするようになり黒くなった。この辺の土地は火山帯の火山灰の関係でこうなるそうである。

宮崎県は広がった。それに人口は少ないので未耕地が沢山あった。雑草が生えているのである。その空を農家から借り耕すのである。鎌は宿のを借って使うのである。ママが出たのであるが、そんなものにかまってはおれない。一日も早く耕して芋を植えなければならぬ。

米軍が宮崎へ攻めて来るのは、この秋だろう。それまでに芋の取り入れを終わらなければならぬというので、みんな必死である。戦車訓練の片手間で、自給自足のための農作であるから、自然に力が入るのである。

軍隊には天気の日和や雨の区別はない。それこそ文字どおりの必死であった。

「腹がへってはイクサが出来ぬ」のである。その腹の足しにするためと思えばこうした耕作にも自然と力が入ったのである。

しかし、二十年八月十五日となって私達戦友と作りたいも畑もそのまま製品の味見もすることもなく、八月二十日宮崎を去った。今になってみると土に親しんだ楽しい思い出であった。

遠 藤 正 義 (高松)

私の住む国分寺町は、黒松・錦松の特産地でその規模も全国一といわれ、わが家の周辺は見渡すかぎりの盆栽園である。その中に点在する民家は、庭木・盆栽づくりの専門家で自から造りあげたとみられる見事な庭が多くみられる。昨年始めに当地に移り住むと同時に、敷地内の空スペースを庭らしいものにした

いと考えていたが、木造り専門の知人から「木は値段があつてないようなものだ」「木や石は自分で集めてから」と聞かされ、木や草花に無縁であった私の出鼻がくじかれて、何も急ぐ必要もない、じっくり考えよう、とまず木や草花の知識を得るため、毎月数回開かれていた花を会員とする植木盆栽市に足を運んだ。当初は、見た目と値段ははずれだったが、何回か足を運んでいくうちに知人(会員)を介して木や鉢物の仕入れるようになった。これが木や草花の出会いである。庭に仮植したその木も鉢物も「造る」には程遠いものがあるが、一応枯らさずに現在に至っている。日は浅いが「植物は遅く生きよう」としている。しかしその植物に相応しい環境を与えてやらなければ、そ

の美しさは見せてくれない」ということが知らされるとともにこの環境づくりの中に人間としての喜びが見出せるように思う。

わが家の庭もそろそろ庭らしいものにしたと考えているが、庭は、毎日の生活に潤いをもたせるものでなければ真の庭とはいえないと思う。素人の私には築庭は困難であるが手入れだけは自分でやろうと心に決めて現在築庭を検討している。

この手入れ(愛情)こそ、庭は、常に美しさを見せ(喜び)、また人としての喜びを味うことが出来るものと確信している。

お じ ま さ と し (高知)

自分の土いじりは異端である。本来の土いじりは、耕した土地に四季それぞれの野菜、花の種を蒔き、又苗を植えて、いつくしみ育ててその成果を、或はその過程を賞で楽しむことであるが、自分にはどうもそうした意識はないらしい。

自分は畑を耕すことはあつても、それだけで終りである。野菜、花を作るのは専ら家内の分野で、自分は一年中雑草との戦いに終始している。それも草の抜きやすい畑の方は減多にかかわらない。固い粘土質の山土が占めている前庭、植木の下草に挑戦している。

春から夏にかけて、雑草共は瑞々しい光沢を持って、元氣よく地上に頭をもたげる。移植した手に、これらの雑草を、丁寧に一本一本抜きとる。一日二時間の作業で、せいぜい四、五坪が限度であるが手がける雑草は皆それぞれ生きる為の執念を物語るように、ユニークな武器を持っている。或ものは土中深く球根を、或ものは葉や茎に倍する多くの鬚根を、或ものは茎の下部から蔓様のも

のを出し次の地点に分家を作っている。最も根絶困難な毒だみに至っては、地下三〇センチに次々と地下茎を横に広げているのである。これらの雑草共、精魂を傾けて退治しておいても、家の周囲を一巡する一週間後には、又元通りに旺盛な生命力を誇って次の世代を形成しているのである。踏まれても蹴られても、尚尚ひるむところなく生存を主張する執念には驚ろきをさえ覚える。自分が土に親しむのは、この雑草共に触れ、すこしでもその不屈の生命力にあやかりたいからである。

大 浦 栄三郎（高松）

「お父ちゃん、退職したら栗林公園の芝刈や掃除をさせてもらうとよく似合うと思うけど」こんな冗談をときどき言われてきました。が、ふりかえってみますと何処にいても土地の広さや技の上手、下手は別として、花木を育てたり野菜を作ることが好きでしたから、この観察は遠からず当っているようなので何時も笑いながら聞き流していました。

その退職を境にしてふとした縁で農家になる機会に恵まれ、冗談に言われた芝刈に行かなくても草刈をしながら毎日果樹作りができることになりました。

我が家の果樹はミカン、夏ミカン、八朔、ネーブル、レモン、ダイダイ、スタチ、梅、スモモ、柿、栗、桃、ブドウ、ピワ、リンゴイチジク、キュウイ、サクランボ等色とりどりでありますが、この中一〇種類程は一、二本の試作品で主なもの五〇本から一〇〇本くらいにして労力の分散をはかりながら栽培しています。草刈や土起し、剪定、施肥、消毒などいろいろ苦勞はありますが、足裏に感ずる土のやわらかい感触や一面に漂う花の匂い、蜜

蜂の羽音でブンブン唸るような畑、目に映える新緑、色づいた果実など四季おりおりの素晴らしいを感じながら働いています。このようにして好きな土に塗れながら木を育てていますが、何と申ししても素人のことですから専門書を片手に試行錯誤を繰り返しています。皆さんのご指導をお願いします。

久 米 清（徳島）

はじめに、土そのものを定義づければ、人間があらゆる手段方法によって、土地其のものの価値観を変化させることが出来る不動産であると思います。

土に親しむことは、その人が土に接する方法によって千差万別であり、基本的にその土地の所在する環境（田畑、山林）等の乾湿度の構造により、感触の表現が異なるものと思えます。土に愛着を感じるのには、その土地に栽培する各種作物の成長であり、結果は自ずから答えがでることであり合理的科学的に検討し精進努力すれば、通常の場合は優秀な結果が得られ、経済効率も大で、土そのものに信頼感が湧いてくる。

私も電信電話公社を退職後、何等なすことを知らず、単一作業である米、野菜等の農作業に当たり毎日土に親しんでいるものです。特に感ずることは、農作業の機械化、合理化であり、設備投資も増大し経済的には甚だ残念ながら、メリットは少なく独立採算は困難な状態です。現在、作物は自然栽培と可温栽培との二種類に分類され、今日では多角的経営の増大で可温ビニールハウス栽培が盛んです。そのため大都市の地域住民の野菜等収穫の四季感が薄れ、野菜、果物等の収穫四季感が判別し難いのが現況です。

低成長経済時代で米作の減反規制、農政等拘束農業の中、経済的効率の低い農作業の、土に親しむことは、人間形成上、甚だ寒心に耐えないし、日常必要な食糧の作付減反政策を思う時、前途を憂慮するものです。然し、私は無限の天空と公害のない空気の良い大地に太陽をうけ、日々健康に留意し土と共に人生をエンジョイしている今日この頃である。

勝 川 正 男（高松）

退職して約十一年七十才になった。若い時スポーツで鍛えているのを過信して六十三才の頃大病にかかり二回も腹切りして肝臓と胃を手術した。いまだに担当医も奇蹟だといわれます。現在どうにか元気でいられるのは老後は、きれいな空気と日当りのよい郊外に家を建て土に親しみたい夢と私の気力がそうさせたものと思えます。私は慾張りでもなく多くの趣味を持っていますが、専門的なものではなく、素人ばなれと思われるのは、西瓜と苺のトンネル作りくらいです。戦時中に田舎に疎開した際、食糧難も伴って生れて初めて肥桶を担いで、頭上から艦載機がくるのもおそれず大根や馬鈴薯などを栽培した思い出がある。私は孫が六人いますが、趣味もさることながら子や孫達が遊びにきたとき都会になつた田園の味と楽しい思い出を残してやろうと晴雨ともできる卓球場、庭の芝生でミニゴルフとアトリエで絵と陶器作りができるようにしてある。夏休みなど孫達の長期滞在中は、ゴムボートで海水浴や魚釣り、またドライブなど多忙な毎が続きます。

前置きがながくなりましたが、健康を維持するために体操や歩くこともいいし、私もときたま若い人とテニスを楽しんでいる。核家族

とか公害時代こそ自然と親しみ、趣味を生かして老人特有の孤独感を払拭し、精神的な若がりやを園ることが肝要であると思う。私は若い時から庭木や花が好きで観音竹は五十年近く作っている。黒松の盆栽作りでは日本一といわれている鬼無の近くにいたので、植木組合と京都タキイの両会員になっており、庭木や花類約二百本を植木市などで購入し、四季それぞれの花を楽しんでいる。屋敷はあまり広くはないが表と裏に蛇口五個、温室の上部に九十度の照明燈と芝生にガーデン燈を設置し夜間も園芸作業ができる。花作りがふえて畑が狭くなったので一昨年からは裏の農家の畑を借り花の苗や新豆、ジャガ芋などを栽培し、魚釣りや雑用以外は朝九時頃からはほとんど暗くなるまで庭木の手入れや野菜作りに専念している。またなるべく化学肥料を少くするため近く堆肥を作るブロック囲いを計画している。ちなみにシーズンに來訪された方には花の種苗や野菜などを進呈します。園芸には土作りが重要な要素でNHKの今週の園芸は実演でたいへん参考になるが回数が少ないので私は末尾にある参考書を利用し、不明の場合は農事試験場、普及所、農協指導員に電話などで教示を受けている。

一、家庭園芸 草花、果樹、野菜

(高等園芸学校教諭著)

二、初歩野菜入門

三、挿木と接木の仕方

四、病氣と害虫

五、園芸新知識(タキイの月刊書)

久 米

実(高松)

先日N・H・K・で放映された「アンリ・ルソー」の絵画のうちに出てくる数々のジャ

ングルの怪奇な植物と花々。天才画家ルソーの空想植物を見ながら、ふと熱帯原生の洋らんを想い浮かべた。私と洋らんの出会いは二た昔にもなりますが当時J・O・S・B・日本洋らん協会高松支部に属し、月例会にも出席しておりましたがその席の殆どがカトレヤシツプの妖艶豪華な交配種で、花型は円形に近くなった園芸品種が多かった。時たま奇妙な原種が紹介されその造形と色彩のユニークさに驚いたものでした。

交配種のカトレヤ、バンダに見るゴージャスな美しさの陰に原種達は追いやられていますが、原色を押えた洗練派手さや奇想天外の花形とプロポーションのシツプ、フェリアナムベラチュラム、ペナスタムをはじめ、胡蝶乱舞のフアレノプシス、蜘蛛とみまちはえるブラシア類、スタンポペアの下降花、マステヴアリア、ブラサボラ、セロジネ類、これ等原種はまったく神のいたずらとしか思えないものでそのデフォルメに、自然美に魅了されどおしでした。

でも現在、世界中の未開原生地の幾つかは開発と言う名の下に、又珍しいが故に根こそぎの採集により絶滅寸前と聞いておりますが残念でなりません。一日も早く神々の造形物の保護に覚醒あらんことを植物愛好の皆様と共に祈る次第であります。

香 西 義 行(高松)

今日も昼ごはんのすむのもどかしく松に登り、最後の大松にとりくんでいる。

松に魅せられたのは昨秋の兼六園(金沢)の見学からで、その手入れの行届いた美しさをみて決心した。やればできると自分に言い聞かせ、おそろおそろはさみ入れたのが昨年

十一月初めである。

さつきの整枝を基本にやってみたが、小枝をとりすぎ失敗した。すぐ本屋へ走り、あれこれ読みあさり、松(庭木)のつみこみの基本を覚えた。それは三つまたの真中を切る。高立ちの枝を切る。下に出ている枝を切る。上、下の枝は下枝を残す。交叉枝はどちらか一方を切る。小枝は多い程よい。棚を作る要領でやる。つみこみはいつも上からみでする等であった。これを忠実に守り、時間をかけてやることにした。高立ちの枝などは上にひっぱりあげてみると親枝の近くに「ここから切ってほしい」といわんばかりに、ちょうどよい場所に三つまたがある。自然の妙におどろく。苦心したのは高い木である。いろいろ考えたすえ、梯子二本を組み合せて三角形(やぐら)を作り、その頂きを大枝にむすびつけて、その上に乗り、手のとどく範囲をつみこんだ。

だんだん上達して、お客様に庭師と間違われたり、また反対に、整枝法の講釈をしてくれることもあり、まことに楽しい毎日であった。一本が終り梯子から降りて仕上りを見るとき造ることへの満足感は何とも言いようがない。大小とりませ二〇〇本余りの手入れした松林の美しさをみて自分ながらよくここまで来たものと思ひ自分の健康に感謝する。松に魅せられたため、犠牲になったのはさつきで、救われたのは庵治のメバルである。松の新芽が出揃う六月初旬頃が待ち遠しいが、その出ぶりの不安も交えながら雨にぬれて緑のさえた松林を今日も見ている。

田 辺 正 久(高松)

還暦を過ぎて楽しみとしては、花作り位いと

なつた。今は皐月と松て三百鉢もあるだろう。優れたものは無いが結構楽しんでる。大分古い話であるが昭和五年、私が十五才の夏の或朝のこと近所の権現さんの境内で朝顔の展示会を見た。清楚な大輪の花が数十鉢も露を含んで美しく咲いていた。それは、極楽の花園を見るようで、少年の心は深く感動したものであった。翌年から私は朝顔作りを熱中した。大輪朝顔は花の大小を競うもので当時の日本記録は直径七寸三分であった。之を目標に努力した。毎年夏になると幾通りもの栽培法をこころみ、特に土と肥料には心を砕いた。昭和十一年夏、栗林公園で大輪朝顔競技会が開催された。私はこの日に照準をあわせて栽培に万全を尽した。先輩の天狗連は云うまでもない。皆、我こそはと張り切っている。さて当日、会場に出品された朝顔は二百鉢余り千紫万紅、妍を競い壯観である。審査委員長は木田農林学校長であった。多勢の人が固唾をのんで見守る中で審査は厳格に進み、やがて優等花が選び出され、金賞がついて一段高い処に飾られた。

五鉢である。花径はいづれも六寸七・八分位、花葉、品格共に十分、正に女王の観がある。人々の間に溜息が洩れ、一鉢毎に出品者の名前が付けられて溜息はどよめきとなった。その五鉢こそは、私が今朝三時、全身の希望を託して搬入した総てであったのだ。

優等花独占。完全制覇の榮譽は燦然と私の頭上に輝き、一躍、高松朝顔界の寵児となった。しかし翌年夏、支那事変で私は応召、残念ながら朝顔作りは終焉となる。最初にして最後の幻のような栄冠であった。もうこれを知る人はいないだろう。青春は遠く去り又あのような優良種子は今得難く、日本記録へ

野 本 登美江 (松山)

先日、通信局の受付に可愛いいつくしの鉢植が置いてあった。五センチ近くものびたもの、黒い土からそつと顔をのぞかせているものなど、小さな鉢に十数本勢いよく並んでいた。

私は春を告げる息吹きをふと感じさせられ寒い間手を入れなかった我が家の裏庭が無性にいじらしく、またやわらかい土の感触がなつかしく思い出され、寒さについて忘れられるやうな気がけなかつた庭に出て、自然のすばらしさに今更のやうに目をみはつた。

おそ植えの水仙の花が寒さにも負けずいい香りをただよわせ、南天の実も赤く燃え、ポケの花も咲いていた。

今年も寒さも大したことなく早や二月の半ばともなつて何となく土のぬくもりを感じさせられる今日此の頃、暦のうへの春を満喫させられる。

春の日ざしをポカポカと背に受け、孫と二人で草むしりをはじめた。

可愛い紫の花をつけたすみれがかれんに咲いていたり、去年うっかり植えかえを忘れた菊にやわらかな新芽が出ていたり、つい、「ごめんさい」と、手をさしのべた。

日頃、

「黒くやわらかいブンブンするやうな土になつて。そして大好きな草花を庭一ぱいに咲かせて、椿も梅も、櫻も、みんな花を一ぱいにつけるやうに」

山 下 茂 (佐川)

と残飯を毎日土に埋めているお陰かしらと。もうすぐ春だ。そうなれば私は毎日庭に立つ。そして土とあそび語りかける。

「私は、土が大好きです」……と。

老後を土に生きることは生甲斐を楽しむことと健康保持の為、退職したご同輩は色々工夫していることと思つた自分は食糧生産の土に生きている。畠四マチで百五十坪余、それに附属の山小屋が一棟ある。山小屋は二メートル四方で高さは一六〇センチ位、床は一メートル余掘下げてそれに里芋、カラ芋を貯蔵するのである。貯蔵方法は農家から貰つた摺糠を芋と混ぜて入れその上へ藁束を五、六把置いておく。四マチの畠の周囲には夫々茶の株があり全部で七十株余あるので一年中の飲茶には事欠かない。

毎年五月になると紋白蝶がヒラヒラ飛ぶ中で婆さんと二人で茶摘をするが女の手先の器用なには驚く。自分の二倍以上摘む。山小屋で昼飯を喰いながら眼下に村落や仁淀川を見おろすと食後の煙草の味も格別だ。私は味噌、ラツキヨ、梅漬が好物だから必ず持つて行く。

今、畠には豌豆、眞菜、ワケギ、ラツキヨ、チンヤ、ニンニク、宮重大根、聖護院大根、杓子菜、結球白菜、葱、大阪白菜、カリフラワ、ズイキ、ニラが残っている。到底喰い尽せないから近所や知人へお分けしているがどうせ蝶々を嬉ばせることになるだろう。眞菜と言う菜は高知市内の種屋に無いので大阪で買うことにしている。

道具は四ツ鋏二、ジョウレン一、トウ鋏一、鶴鋏一、鎌三、エガマー、スコップ二、オノ

一、鋸二、天秤棒一、担いフゴ一荷、パイロ一荷、メグリ籠二、箕一、スイノウ一、餅搗きの木臼一、キネ一、他に筵、袋、藁縄、ロープ等々が九尺角の物置に一杯詰っている。収穫物は今は山小屋に里芋が三十株位とカラ芋が十五キロ余、家に大豆と蕎麦が夫々四升位残っていて蕎麦は近く粉にしたいと思う。甲子園の高校野球が済んだら土佐へとんで帰って作付に追われるだろうと大阪の一点で工夫を練っている。

水野輝穂(松山)

築山の白梅が建国記念日の今日、満開に近い。数日前から、一日に何回となく、外に出て、ながめてひとり悦んでいる。

現在、わが屋敷内に、庭木三〇種六八株、花木二八種類、草花七〇位が、雑然と植えられている。鉢植が四五種二五五(鉢数の多いのは、さつき、エビネ、寒ラン、春ラン、洋ラン、サボテン等その他いろいろ)いま、福寿草、黄梅、ボケ、寒椿、寒あやめ、クロツカス、キリタンサス、アザレヤ、デンドロ等の花が咲いているが、暖冬で季節的にオヤツと思うものがある。やがて陽気とともに数多くいろいろどりの花が咲き競い、楽しませてくれる。

しかし移植、剪定、施肥、病虫害の防除、そのほか、冬季に霜除け、防寒、夏季の日除けを必要とするものがある、年中作業がある。外出ばかりしていると時期を失う。

鉢植の水やりがうまく調節できなくて、花芽が出なかつたり、根ぐされ等で枯らすなど失敗もある。

病虫害の防除の消毒についても、一律に同一薬剤を散布、めんどうだから回数も少ない。

隣家から塀を越えて浸入する、毛虫が檜の木に、青虫がくちなしに、消毒をするより竹竿で落し処理することがある。

松喰虫の被害が今大変問題と呼んでいるがわが自慢の庭の松に及んではと気にしていたところ、幸い知人から、この道の第一人者で愛媛農大の先生から、その対策を伝授していただいたので、試みてはと知らせていただき昨年十二月松の木の周囲に溝を掘り、ダイシストン粒剤三キログラムを埋めたので一応気を休めている。いろいろ研究もするけれど。

日当りのよい処、半日陰、そう注文通りの場所というのも少い。植えておけば、何とかなる。枯れたらまた何か植替える。木をいじめ作業しておれば健康のためによいらしい。

三好利雄(高松)

小学生の頃サボテンや草花を貰い歩き、山で腐葉土をとって、自作の植木鉢で育てたこと等の記憶がありますが、植物を育てることに興味をもちはじめたのは三三年頃、通信局の園芸サークルに入ってからです。爾来二〇年余り、菊、バラ、サツキをはじめとして手当り次第に頭を突っ込み現在に至っております。これと云って専門的にとりくんだものがなく全くの上すべりですが、土に親しむと云うことでは人後に落ちない気狂いの一人です。

退職後は二百坪余りの宅地を活用して、果樹と野菜作りにも手を出し、趣味と実益を兼ね、更に体力作りにもと、一石何鳥かをねらつて汗を流しております。

現在のところ土曜、日曜がかき入れどきでゴルフも釣も棚上げして、早朝から暗くなるまで一日中屋外でゴソゴソやっております。

結構忙しく夕方はいつもぐったりと心地よい疲労を覚えていきます。

さて成果は?……盆栽や花作りは年数が永いだけで、相変らず駄作ばかりですが、野菜は完全自給体制をとり余剰分は親類や娘達に送ってやっています。果物も若木ながら、昨年は桃、ブドウ、リンゴ、ミカン、キウイ等を収穫しました。今後は楽しみです。

在職当時、転勤の度に、温室のとりこわし組み立てをしたこと、鉢物の貰い手を探したこと、トラックを二台用意するので笑われたこと等を思い出しながら昨今の落ち着いたかつろぎを味わっております。

渡部般貞(松山)

人の運命は不可思議である。若干の土地が私の第二の人生を引き寄せてしまった。何故か私にも明確な動機は自覚できない。

しかし、原爆被爆者としての、あの瞬時の恐怖が、退職を機縁として、むくむくとよみがえったのかも知れない。とにかく、土に親しみ緑を育てることに、余生を捧げたいと決心したのである。

昭和二〇年八月六日、世界で初めて広島に原爆投下されたあの快晴の朝、私は仁保国民学校の二階の教室のどまん中で、朝刊に目を通していた。そのとき、ピカツと暗夜の稲妻のようなものに全霊を打ちひしがれたのであった。その直後、何ごとならんと人々はとつさに窓際に走り寄り、目のあたりあのキノコ雲を見たのであるが、その次の瞬間、鮮やかな緑の景色が、痛いほど目にしみ込んだと思ふや否や、熱風とともにたたきふせられていたのである。一時失神していたらしいが、気づいてみると、教室の中央で、ガラスの粉の

上にうつぶせに倒れていた。

比治山の本隊は爆心に近いので気になり、自転車で報告を兼ねて見舞に出向いたのであるが、このときまた、凄惨極まりない地獄絵そのままの光景に出くわしたのである。私は爆心方向へ、人々は殆んど全裸で顔や手足に灰をぬったような、男女の見分けもつかない群衆が反対方向へ逃げ惑っていたのである。それはさながら灰色の地獄そのものであり、緑は一瞬にして消失した世界と化していたのである。

私は大火に焦げる広島の夜空を眺めながら何時くずれ落ちるかも知れない我が家から運び出した寝具、世帯道具で、庭のいちじくの木の下に蚊帳を張りねぐらをしつらえ、妻と二人で数日を過ごしたのである。このときほど大自然から緑を奪われた殺伐さに心が痛んだことはなかった。私の心の緑も同時にふっ飛んでいた。妻も私も生きていたことが不思議でならなかった。

復員帰郷してからも、七〇年間は草も生えぬ、被爆者は一年以内に死んでしまう等々のデマに惑わされ、心の緑はよみがえることがなかったが、広島に草が生えたとのニュースに飛び上って喜んだものである。私は草をこの目で確認するため、高浜から宇品へ旅行したことが、昨日のように鮮烈な記憶として残っている。

あれからすでに三〇有余年、病氣らしい病氣もせず健康に生かさせて戴いたうえ、四〇余年の公社生活も皆様方のご援助のお陰でも任務を果たさせて戴いたことは、何としても有難い極みで、感謝の念一入の今日この頃である。そんなわけで、私は余生を大地に親しみ緑を育てることに努力し、また自分自身の

心に、少しでも多く緑を育成して、世間様のお役に立ちたいものと念じている。どうか今後とも、よろしくご指導のほどをお願いいたします。

尾 田 茂 夫 (板野)

三十有余年お世話になった公社を退職し先祖の遺産である田畠で残り少ない第二の人生を歩んで行こうと決心し農業に取り組んでから早くも二年の月日が過ぎようとしている。母亡きあと働き手が無い儘に荒れ放題に放置してあった果樹園や田畠を整地するのにひと苦勞したが一昨年ようやく元の姿に戻すことが出来、その時の喜びは又格別であった。

現在二〇アールの米、ぶどう一五アール野菜一〇アールの耕作をしているが健康第一に考え決して無理をせず誰に気がねすることもなく自由気ままな生活を送っている。自分で育て、世話をした果樹や野菜を収穫するときの喜びを知ることが出来たのもこの年になって初めてである。農閑期には在職中苦勞をかけた女房と二人でお四国参りや旅行に出かけることを唯一の楽しみにしている今日此の頃でもある。

今日日本の農業は、農畜産物の自由化や米、みかんの過剰による生産調整等非常に不安定な時期にさしかかっているが私はこれからの短かいであろう余生を健康で働けるかぎり土と共に生き、土に埋もれて行く心算である。

「でんでん日尾クラブ」第六回集会

ひつじ年の初春をことほぐ〇B仲間の新年集会を、あたたかな寒の入りの一月六日の午後、松山市久米公民館で開催した。

御慶の祝杯をあげて年賀状の交換に代え、あわせて年間行事計画を打ち合せるというので、会員ほとんどが出席して、いつものように和気あいあい。

水野世話人の新年あいさつ、六車さんの音頭で乾杯してから、市岡さんの叙勲の喜び、梅崎さんの県政の展望など、新年らしい話題が出る。祝い酒にほてって一同よい顔色となり、たがいこの一年の息災を期し、まずはめでたい集りだった。(T生)

余 栄

ご逝去されました左記の方々に対し多年電気通信事業に貢献された功績により叙位叙勲が授与されました。
勲八等瑞宝章 (五三、四、二六)
故 藤堂 圓殿 (宇和島)
正七位勲六等瑞宝章 (五三、五、六)
故 橘 嘉藤一殿 (今 治)
從五位勲五等瑞宝章 (五三、五、一八)
故 瀧下 寿夫殿 (松 山)
正七位勲六等瑞宝章 (五三、七、七)
故 福田 福松殿 (松 山)
從六位勲五等瑞宝章 (五三、八、三二)
故 杉本 登殿 (丸 亀)

訃 報

次の方々が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	行年	所 属
三河次郎殿	53・12・15	六七	丸 亀
津村 涉殿	54・1・18	六七	徳 島
矢野賢吾殿	54・1・16	七二	松 山
渡部孟一殿	54・2・2	六八	松 山



随 筆

わたしの日記

泉 節太郎（松山）

わたしが日記をつけはじめたのは、昭和のはじめ頃かと思う。当時は、えらい意気込みでつけ始めたものだが、「三日坊主」で終ったり、何かの拍子で中断すると、あとを続けるのが嫌になったりして、何回か中止したことを覚えていて。

わたしが、挫折することなく日記がつけられるようになったのは、昭和七年か八年頃である。

はじめ用いた日記帳は当用日記であった。この種の日記には、頁毎に、順次に日付が印刷してある。ところが、わたしの日記はある日は二―三行で終ったり、またある日は数頁に亘ったりするので、当用日記では具合が悪いため、昭和十三年頃から自由日記に変更して今日に至っている。そして近頃（昭和四〇年以來）では、一体に記事が多いので、A5版の「つれづれの記」とか、「文芸日記」を用いているが、そうした日記帳が一年に四冊くらい要るので、今では毎年、年末に翌年のものを四冊ずつ買うことにしている。

先般、過去の日記を整理しておこうと調べたところ、ある期間のものが紛失していることに気がついた。そのうち、いちばん大きな欠落は、日記をつけ始めてから昭和十一年九

月までのものと、昭和十三年六月から三カ年ほどの間のもの、および、昭和二十年二月から同七月二十五日迄のものである。前二者は戦時中田舎へ疎開していたものが、他のものに紛れこんで無くなったものかと思う。最後のものは、昭和二十年七月二十六日の松山空襲の際焼失したものである。それでも今残っている日記帳は合計で七十七冊あることがわかった。

今わたしは時々ひまを見てはそれを読み返している（今読んでいるのは昭和二十一年頃のもの）が、自分の周囲に起った出来事や、そうしたものに對する自分の感想意見等が載せられているので、読み進むに従って、当時のことが彷彿として甦り、非常になつかしく興味深いものがある。またこれを読んでみると、当時の社会の動きがよくわかる。

例えば、昭和二十一年四月十六日の記事には、戦後才一回の総選挙の結果が記載され、それによると、自由党は才一党として一四一の議席を得、進歩党九六、社会党九三を得たとしてゐる。また、四月十九日には選挙管理内閣の首班である幣原喜重郎氏が進歩党へ入党し、五月六日の項では、自由党党首の鳩山一郎氏がマッカーサー司令部の指示により追放せられ、五月一日の記事には社会党党首片山哲氏が単独内閣の決意を表明して、幣原首相に對し、大命降下奏請方申達したが、首相は明確な回答を与えなかったという。こうした記事を読むと、マッカーサーの思惑や各党間のかけ引を垣間見る思いがする。

いづれにしても、わたしの日記はわたしの歴史である。それだけに、前記のような欠落があることは、わが子を失ったような愛惜の情を禁じ得ないものがある。

年寄りの冷水

栗 田 信 雄（松山）

週間朝日一月五日号に悪魔の健康法と題し「マラソンはくたびれソソカ」とある。マラソンは必ずしも万人向きでなく、とくに老人は「年寄りの冷水」ということを心得ねばならぬといっている。「年寄りの冷水」とはよく云われる言葉で広辞苑によると「老人に不似合いな危ぶないことをするな」とのことである。

右の記事を読んで、私が二年前マラソンチームに誘われて冷水をかぶったことを思い出したのである。

その頃胃の調子が悪かったので、なんとかして調子を取り戻そうと早朝ランニングを始めたのである。始めるにあたっては年令のことを考えぬではなかったが「若い頃三十何年間テニスで鍛えた足腰だ」と自信たっぷり家族の忠告など耳にしなかったのである。小雨のときはヤッケを着て走り、少し大降りのときはアーケード街を走りに走った。

しかし日がたち距離を伸すにつれて両膝の関節が痛くなりはじめ、やがて日課の城山登りに支障を生じ、ついで歩くのにも困難を感じるようになった。それでも、「歩けぬようになるまで走るんだ」とがんばりつづけたが三ヶ月、三キロを走るようになった頃には痛さはますます激しくなりついに走るのを断念せざるを得なくなった。

家族のものからは「いわぬことではない」と云われ知りあいの外科医には「年を考え」とお目玉を頂戴したような次第である。

さて兼好法師は「己が分を知りて及ばざるときはすみやかにやむを智といふべし。ゆる

さざらむは人のあやまりなり。分を知らずして
 励むは己れが誤りなり。力衰えて分を知ら
 ざれば病をうく」といつている。
 なにごとについても己を知り分を守ること
 の大切なことをランニングの失敗で思い知ら
 されたのである。

私の日常生活

合 田 勇 (松山)

退職してから早いもので十六年の歳月が過
 ぎてしまいました。

いつも心にあることは戦後の欠陥機械の保
 守に日夜苦勞をした夢を見るのと、時々仕事
 の話など息子から聞いていて電話局で先輩、
 後輩と一緒に働いているような錯覚を起すこ
 とです。私にとって人生の大半は職場が生き
 甲斐であったと今更らに痛感しております。
 目下の日課は道後の朝風呂に出掛ける事に始
 まり、庭掃除に草抜き、好きな盆栽の手入れ
 自転車で病院へ薬を貰いに行くついでにフジ
 へ買物に立寄ることくらいです。あとは川柳
 を作ってみたり孫と一緒にテレビを見たり
 の毎日、あつと云う間に一日が過ぎてしま
 います。五時が鳴ると仕事が無事に終った様
 な気持ちになり着物に着替えて神仏に礼拝して感
 謝をしています。これが私の毎日です。

私も七十三才、歳には勝てず去る十一月初
 め肺炎に罹り十二月中頃まで日赤へ入院しや
 つと命拾いをしました。私の最高の楽しみで
 あつた息子夫婦に孫二人、娘夫婦に孫夫婦そ
 れに曾孫二人を加えて総勢十二人の食事がで
 きなかつた事が入院中一番こたえました。退
 院して思いますことは我が家の生活が平凡で
 すがやはり一番楽しいと云うことです。これ
 からは充分健康に気をつけて長生きし妻と二

人で陰ながら子供達を見守ってやりたいと念
 じる今日此の頃です。入院中退屈しのぎに川
 柳や俳句みたいなものを作ってみました。
 身にしみる看護婦さんのあたたかさ
 見た目はどうまくは乗れぬ車椅子

高令者事業団

高 橋 数 一 (西条)

高令退職者の要求したい項目は大体年金、
 医療、仕事、住宅の四つに集約されるであろ
 う。その中の一つの仕事に関連して述べてみ
 たい。

雇用創出の施策などといっても、概ね青壯
 年を対象として考えられていて、高令者の場
 合は、雇用の概念や構造の埒外に置かれて来
 たのである。一面それは当然なことでもあつ
 て、高令者(殊に退職者)自身にしても、い
 まさら他者と同じ時間に縛られての勤務に従
 事しようなどとは思わない、という向が多い
 ようである。

しかし、常勤的に一日中拘束されるのは厭
 だが三時間ぐらいなら働いてもよい、月一杯
 は辛度いが十日ぐらいなら勤めてもよい、多
 少字を習っているから封筒の表書きの仕事が
 あつたらそれをしてよい、ある種の特技を
 持っているからそれを活かす仕事があれば出
 向いてもよい、何も能はないが外出をする夫
 婦から頼まれたら子供の守をしてもよい、と
 いうような高令者もかなりいることと思われ
 る。そうしてそうした半端仕事をやってもら
 いたい小事業所や家庭もかなりあるにちが
 ない。その双方の要求を充たし合うための組
 織ができないものだろうか。それができれば
 高令者は社会的に有用な存在となり、経済的
 にもうるおうのだが、と私は年来考えていた

のであつた。

ところが、既に三年前に組織の発足を見て
 いる方面があつたのである。「東京都高令者
 事業振興財団」がそれである。しかも全国的
 に波及しつつあつて、早くも新居浜では、高
 令者事業団設立の推進母体として「新居浜市
 退職者協議会」が結成されている模様である。

ハモとエビ

田 中 義 隆 (松山)

退職後の第二の人生にも、やはり運・不運
 がつきまとう。とはいえ、やがて死が訪れ、
 そこで一巻の終わりとなる。
 ことわざに、「鱧も一期海老も一期」とい
 う。平野雅章氏の「食物ことわざ事典」を繰
 ると、次のように書いてある。

「現世にはハモのような長いものとか、エ
 ビのような曲がつたものもあるが、いずれも
 やがては尽きるといつた点ではまったく同じ
 ものである」といふこと。

人間の境涯も差別をとりたてていえば、上
 下貧富といろいろあつても、つまるところは
 みなひとしく一生を過ごし、(中略)所詮は
 五〇年か七〇年の命で一生を終るものなの
 である——ということ。

そうと悟ることができれば、運・不運にこ
 だわることもない。あるがままの現在に腰を
 すえて、一日一日をたのしく暮らしたい。
 そうは思うものの、自分はいったいハモだ
 ろうか、エビだろうか。



福 田 秋 風 郎 (松山)

日通が出入り社宅も異動時期
 梅桜春もリズムに乗って来る
 明日の夢追えと二浪へ桜散る

西国順礼の旅

藤 田 基 孝(宇和島)

一口に西国順礼と言っても範囲が広く昔流に言えば畿内五国(大和、山城、摂津、河内、和泉)を主軸に、南海道は紀の国、北陸道は若狭、東山道は美濃、近江、山陰道では丹波、丹後、そして山陽道は幡磨の国と広い地域に亘り、観世音菩薩を信仰の対象とし、定められた三十三の札所寺と、西国順礼をひろめた花山法皇縁りの三寺院を番外札所として巡拝する習わしである。

近年は団体バスにて十二日位で巡る様だが私は単独にて二十日間を予定し五月上旬出発した。一番は那智の青岸渡寺、二番紀三井寺三番粉川寺と順を追って行き、札所の多い奈良から京都へ、太秦で宿をとったので東映の映画村に立寄り丹波から丹後の国に入る。

稿の財布が空になると言う宮津あたりは用心して通り天の橋立で雨に会う。成相寺では幼児を梵鐘に铸込んだと伝えられる撞かずの鐘を雨に濡れながら仰いで見た。

若狭に入り敦賀に着いた時は予想外の寒さに宿の内儀はストーブを焚いてくれた。

寒さに震え上った若狭から近江に出て琵琶湖の湖畔の宿に三日宿りてその周辺の寺々を巡り、美濃の国の谷汲寺に詣る。

この寺は西国順礼の満願寺なので他の寺と異り、過去現在未来の三ヶ所分の納経をなし今迄親と頼みし笈擢を脱ぎ納める。そして本堂の柱に打付けてある青銅の鯉を撫でて精進落ちを為し、俗界の古里に帰って来た。

一番の那智山から三十三番谷汲山まで一気に巡るのは中々大変である。そこで那智山と谷汲山だけ詣でて全部回ったつもりになる人

もあり、それも面倒と両方の頭文字を合せた那谷寺(北陸の粟津温泉にあり)に詣り温泉に浸ると言う呑気な連中もあると聞く。

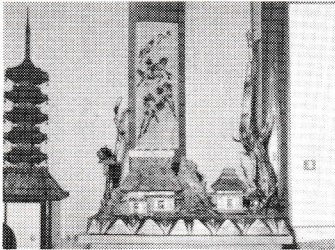
谷汲に夕やみ迫れば心急ぎ茂吉の歌碑も見ずに去りゆく

趣味の作品造り

池 田 清 繁(新居浜)

趣味の作品造りで余生を楽しんでいるが元来の旅行好き。車を運転して南は沖繩から九州、北は北海道知床岬の各地の奇跡、寺院等を見て回り、そのときのイメージを思い出し構図を練り、樹皮、松の皮、木の根などを使い、入母屋造りの家、茶室、水車小屋、五重の塔、三重の塔、昨年十月に京都で見た六角の夢殿等を造り楽しみ、その余暇を使って庭木の手入、蒔込、身体の内むいとまもない。作品五重の塔一塔の製作に取組めば約七〇日三重の塔で五〇日の日程はかかりますが体の動く限り続け将来にのこる作品を作りたいと思っております。

また、妻の趣味は、遠く唐津、信楽焼の原土等を購入して埴輪造り、お互に楽しく余生を送っております。



投稿規定

- 一 会員消息 四〇〇字以内
- 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
- 三 随筆、随想 六〇〇字以内

原稿締切 五月一日

原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

▽今回の定期異動で、工藤通信局長が退職され江口副局長が横須賀電気通信研究所へご栄転になりました。ご在任中は当会に対し物心ともにご協力をいただき、おかげで本会報も順調に発行できましたことを厚く感謝いたします。

▽次号会報第二十七号は七月一日発行の予定です。特集として次のテーマで原稿を募集します。①私の生甲斐について②私の健康法について③私の趣味について。以上三つのうちの一つをとりあげて貴方のご経験などお寄せいただき会報をにぎわしたいと思っております。ご多忙中恐縮ですが四〇〇字程度で玉稿をお寄せ願えませんか。(玉川)

電友会四国連合会会報 第二二六号

昭和五四年四月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目(二七九〇)

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社